

## 7. 南米

### 南米の日本語教育の状況

南米の機関数は394機関（前回（2018年度）調査比21.4%減）、教師数は1,548人（同15.8%減）、学習者数は34,557人（同18.2%減）となっており、機関数、教師数、学習者数ともに増加した前回調査からいずれも減少となっている。

機関数は、多い順にブラジル（261機関）、アルゼンチン（51機関）、コロンビア（20機関）となっており、教師数も、ブラジル（942人）、アルゼンチン（252人）、コロンビア（85人）の順となっている。一方、学習者数についてみると、ブラジルが最も多く20,732人、次いでアルゼンチンの4,486人と変わらないが、その次がペルーの3,761人となっている。ペルーにおいて、機関数（13機関）と教師数（81人）に対して学習者数が多いことは前回調査と同じ傾向となった。

国ごとの増減をみると、機関数は南米10か国のうち6か国で増加しているが、教師数は6か国で減少、学習者数はエクアドルとコロンビアを除く8か国で減少している。特に地域最大の日本語教育国であるブラジル

では、機関数31.3%減、教師数20.3%減、学習者数20.7%減といずれも大幅減という結果であった。

学習者数について教育段階ごとの割合をみると、初等教育12.5%、中等教育18.5%、高等教育8.1%、学校教育以外60.9%となっており、前々回（2015年度）調査、前回調査に引き続き、学校教育以外の占める比率が高い傾向にある。

オンライン授業実施率は、6か国で100%、ベネズエラ90.0%、アルゼンチン84.3%、ブラジル83.9%、最も実施率の低いパラグアイでも69.2%と、全ての国で全世界の実施率（63.1%）を超えている。

日本語学習の目的をみると、前回調査同様、「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味」（90.1%）が最も高い割合を示した。次いで「歴史・文学・芸術等への関心」（80.7%）が22.4ポイント増加し、前回調査で同地域内3位の「日本語そのものへの興味」（79.7%）よりも高い割合となった。

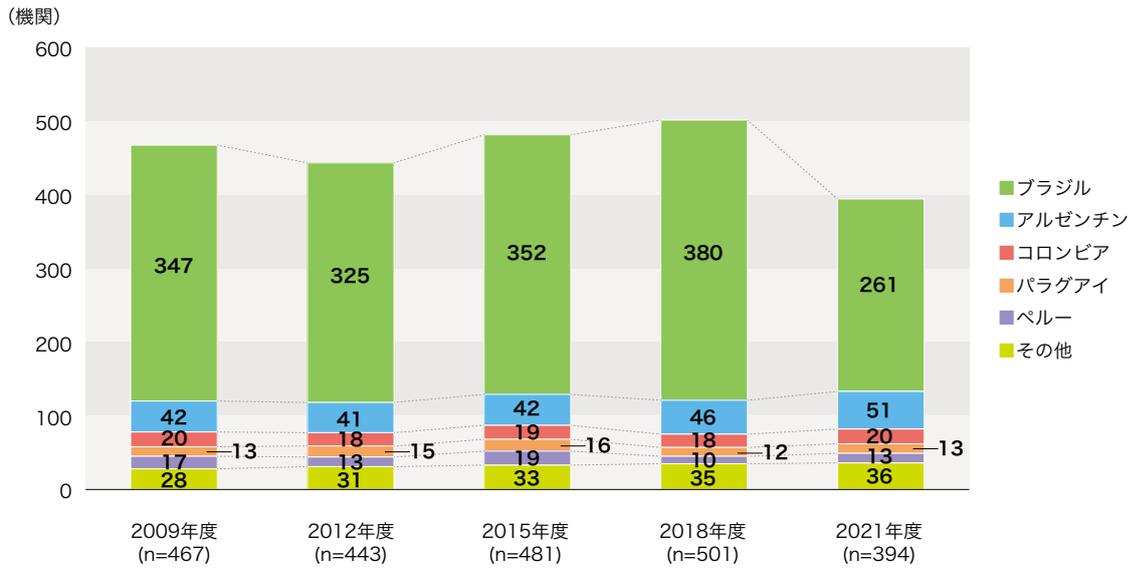
表2-7-1 南米における機関数・教師数・学習者数

（2021年度の学習者数順）

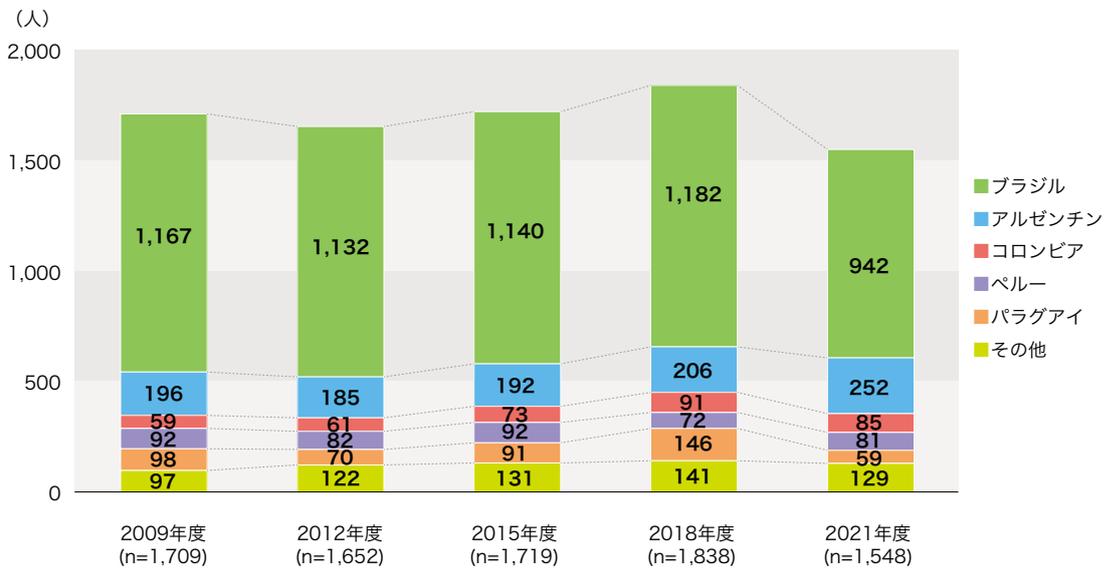
国・地域	2021年度									人口 (人)	2018年度		
	機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)	10万人あたりの学習者 (人)	教育段階の構成(学習者)(人)				機関 (機関)		教師 (人)	学習者 (人)	
					初等教育	中等教育	高等教育	学校教育以外					
ブラジル	261	942	20,732	10.9	2,189	4,869	1,705	11,969	190,755,799	380	1,182	26,157	
アルゼンチン	51	252	4,486	11.2	350	140	227	3,769	40,117,096	46	206	5,054	
ペルー	13	81	3,761	12.8	1,156	998	10	1,597	29,381,884	10	72	3,792	
コロンビア	20	85	2,024	4.6	0	0	436	1,588	44,164,417	18	91	1,645	
パラグアイ	13	59	1,262	24.4	413	244	1	604	5,163,198	12	146	3,010	
チリ	11	39	1,096	6.2	44	64	323	665	17,574,003	10	43	1,205	
ボリビア	5	22	488	4.9	172	61	0	255	10,059,856	6	40	557	
ベネズエラ	10	32	302	1.1	0	0	34	268	27,227,930	11	35	443	
エクアドル	4	20	225	1.6	0	0	70	155	14,483,499	4	11	112	
ウルグアイ	6	16	181	5.5	0	0	10	171	3,286,314	4	12	251	
<b>南米全体</b>	<b>394</b>	<b>1,548</b>	<b>34,557</b>	-	<b>4,324</b>	<b>6,376</b>	<b>2,816</b>	<b>21,041</b>	-	<b>501</b>	<b>1,838</b>	<b>42,226</b>	

※人口は国際連合発表のPopulation and Vital Statistics Report (as of 3 June 2022) より引用

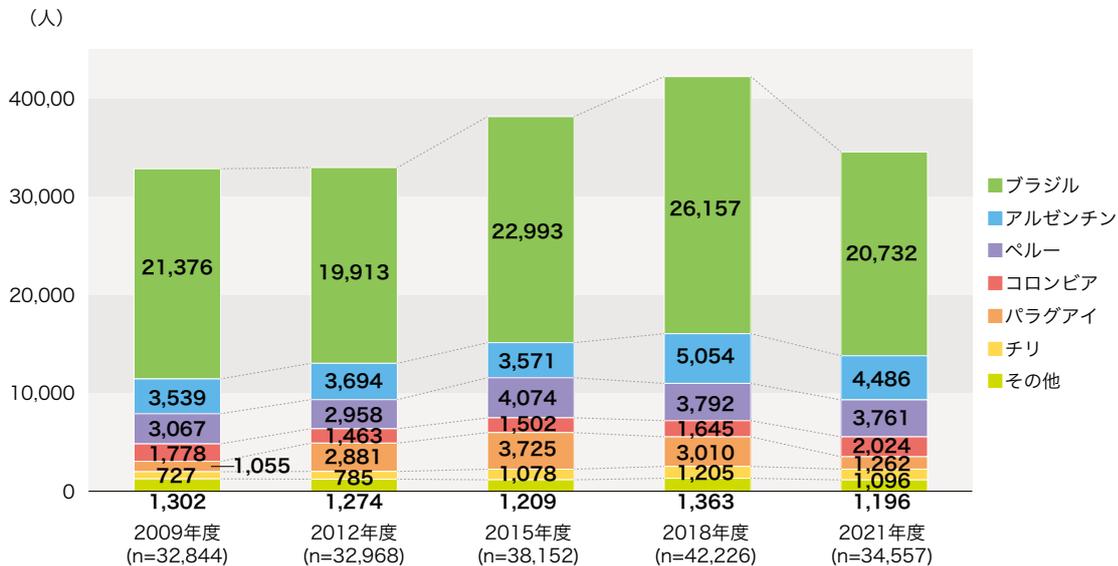
グラフ2-7-1 南米における機関数



グラフ2-7-2 南米における教師数



グラフ2-7-3 南米における学習者数



グラフ2-7-4 南米における教育段階別学習者の割合

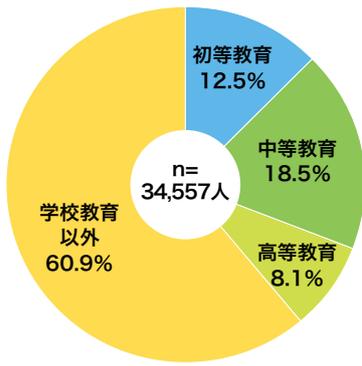
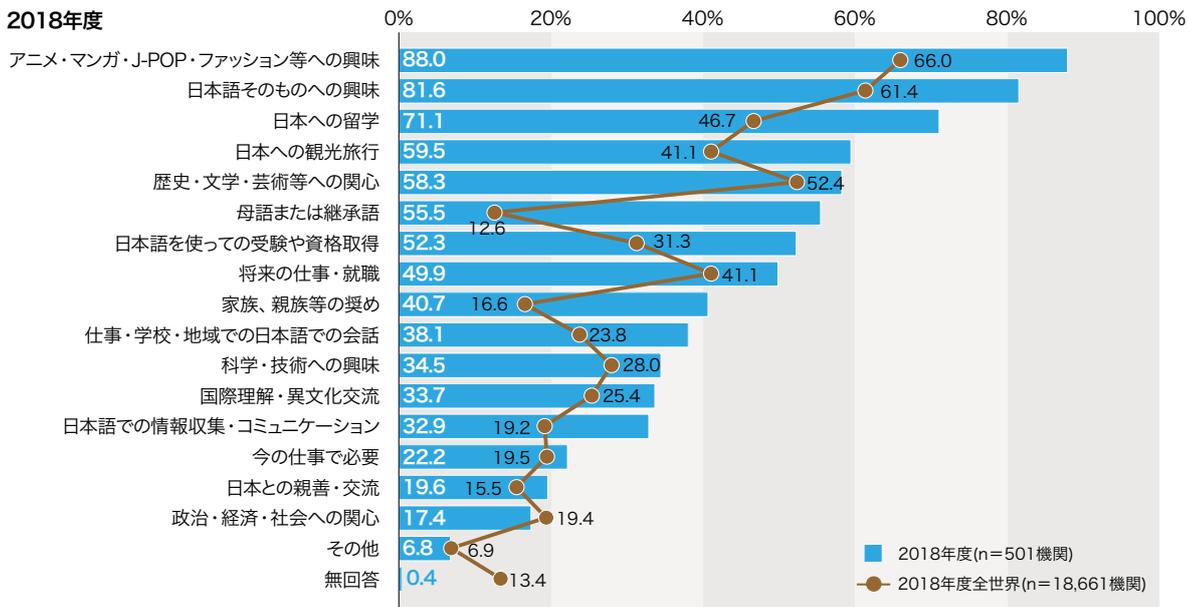
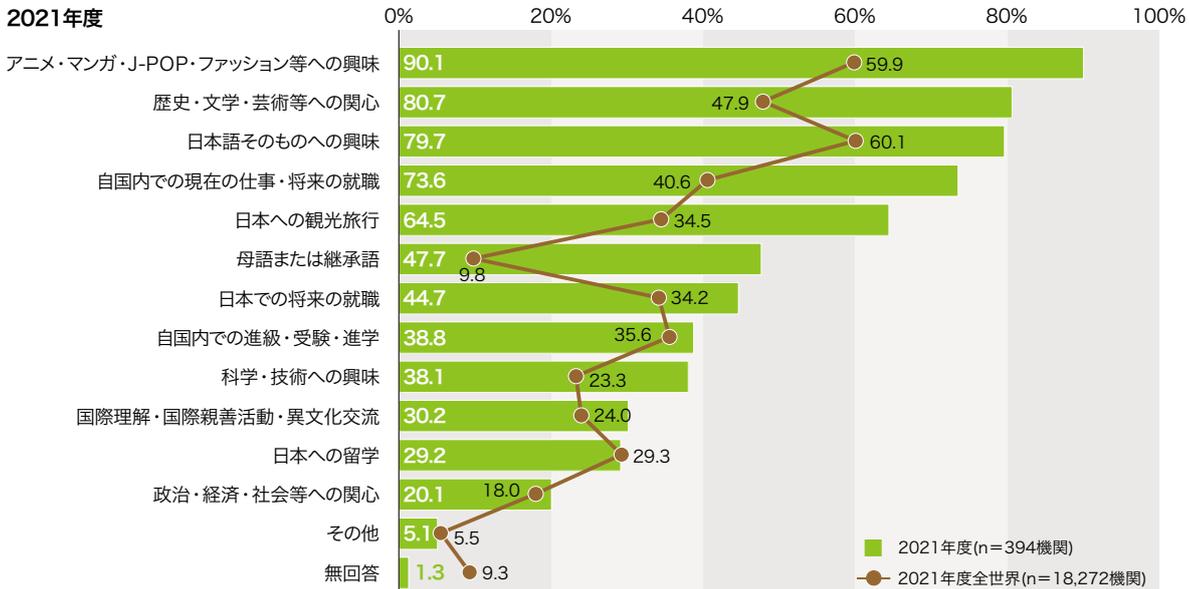


表2-7-2 南米におけるオンライン授業実施率

国・地域	国・地域 全体機関数	オンライン授業実施	
		(機関)	(%)
ブラジル	261	219	83.9
アルゼンチン	51	43	84.3
コロンビア	20	20	100.0
ペルー	13	13	100.0
パラグアイ	13	9	69.2
チリ	11	11	100.0
ベネズエラ	10	9	90.0
ウルグアイ	6	6	100.0
ボリビア	5	5	100.0
エクアドル	4	4	100.0
<b>南米全体</b>	<b>394</b>	<b>339</b>	<b>86.0</b>

グラフ2-7-5 南米における日本語学習の目的



## 各国・地域の動向

### 【ブラジル】

ブラジルは引き続き南米最大の日本語教育国であるものの、コロナ禍の影響が大きく、機関数は前回調査比119機関(31.3%)の減少、学習者数は5,425人(20.7%)の減少となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、機関側及び学習者側ともにオンライン授業に必要な通信環境の整備ができなかったり、経済(財政)面で不安を抱えたりなど、日本語学習(教育)活動を維持できない状況が一部で発生したことがその要因と考えられる。

一部の州政府教育局(サンパウロ州教育局、パラナ州教育局、ブラジリア連邦地区教育局、アマゾナス州教育局)が公的中等教育機関に設置している言語センターでの課外日本語講座(学校が半日制であるため、空き時間の遊休教室・施設を活用した活動)では、コロナ禍でオンラインに授業形態を変更した際、IT環境が用意できない学習者が受講を断念するという状況がみられた。加えて、ブラジル連邦教育省が推進する中等教育機関の全日制移行の影響で一部機関の言語センターが廃止されるケースも出ており、今回調査の中等教育機関の学習者は前回調査の5,825人から4,869人へ956人(16.4%)減少した。学校教育以外の機関のコロナ禍の影響はさらに大きく、日本語教師が一人で運営する私塾タイプの機関において、オンライン授業に対応できず学校を閉鎖するケース、学習者

側の学習環境の整備や授業に必要なオンライン操作の習得が追い付かず、同機関の学習者数がコロナ禍前に比べて半減したケースもあり、学習者が16,167人から11,969人へ4,198人(26.0%)減少している。これらの状況を反映し、ブラジルにおけるオンライン授業実施率も南米全体の86.0%より低い83.9%に留まっている。

高等教育段階においては、5連邦大学の日本語学科学学生チューターが他学部(学科)の日本語に関心のある学生に対して日本語講座を無償で提供する「国境なき言語」プログラムを実施していること、私立大学クルゼイロドスル大学で2019年に通信課程の日本語コースが新規開講したこと、同大学が他大学より多くの受講を受け入れることが可能となっていることなどから学習者数は206人(13.7%)増加している。

ブラジルの日本移民の歴史は110年以上に及ぶ。ブラジルの日本語学習者には日本にルーツを持つ者も多いが、家庭内で日本語を使用しているケースは少数で継承語を学んでいるという意識はほとんどなく、機関側の授業形態も、たとえ日系団体が主催する日本語講座であっても外国語としての日本語教育として実施しているところが多い。

※州別の集計表(1-3a、1-3b)は、国際交流基金Webページで公開しています。